

たまたれ

通卷 第33号



社殿天井画「麒麟」

ご挨拶

宮司 竹間 宗磨

丙申歳の年頭を寿ぎ謹んで聖寿萬歳、
皇室の弥栄、國家の平穏、ご崇敬の皆様
のご清福をお祈り申し上げます。

旧年は当社「平成の大修理奉賛会」が
発足し、十月二十七日には仮殿遷座祭
を斎行致しました。

連日の晴天にも拘わらず、その日は
朝より雨でした。天の気ゆえに如何と
も為し難く、案じつとも一同祭儀の諸
準備を取り進めましたが、夕刻より雨
も上がり、大神様には、ご崇敬の皆様奉
拝の中をめでたく仮殿へとお鎮まり戴
きました。

悉なく祭儀を了え、天を仰ぎますと「高
良の神は月神」の伝の通り、仮殿の真上
には月光が輝き、大神さまの御神威を
今更ながら誠に有難く拝した次第でござ
ります。

本年はいよいよ屋根替の工事が施
工されます。この大事業完遂に向けて、
何卒ご理解ご支援を賜りますよう宜し
く御願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして佳き年と
なりますよう祈念申し上げ、ご挨拶と
致します。

たまたれ



宝珠みくじを求めて毎年長蛇の列ができます

授与に行列のできる「玉替祭」は、江戸時代の弘化二年（一八四五）に始まつた高良山の伝統神事であります。本年も成人の日に斎行され、その年の運を占う「宝珠みくじ」がこの日に限り授与されます。このお祭りはその昔、高良の神様が千珠・満珠という宝の玉を用い、神功皇后様をお輔けしたという故事にちなんで行われます。

午前九時から始まる祭典に引続き、宝珠みくじの授与が開始され、社頭には新年の開運を願う人々が行列をなし賑わいます。



お正月に本社を始め、摂末社にお供えした鏡餅を下げる開鏡開祭は、厄除け、延命の祭りとして古くから行われてきました。寒の最中のこの日、御社殿での祭典終了後、還暦を迎えた祈願者代表が赤いちゃんちゃんこを着用し、宮司と共に鏡割が行われ、境内では温かい善哉が参拝者にふるまわれ、大いに賑わいを見せます。



鎌倉時代初期に起源をもつと云われる子の日松神事は、毎年正月初子の日に行われていました。明治二年以降途絶えていたこのお祭りは、上津四地区（上津、本山、千束、二軒茶屋）の方々の奉仕とご協力により平成十二年に再興され、以来毎年その地区の児童と世話役の方々が装束を着けて上津地区から松苗を高良大社まで運び、祭典の後、社殿裏山に植樹します。この神事はかつて高良の神様が、高良山に御鎮座される際に松をお植えになつたという故事伝承に由来しています。

祭事のご案内 [月より]



■玉替祭 一月十一日

■鏡開祭 一月二十一日

■子の日松神事 二月七日

鎌倉時代初期に起源をもつと云われる子の日松神事は、毎年正月初子の日に行われていました。

明治二年以降途絶えていたこのお祭りは、上津四地区（上津、本山、千束、二軒茶屋）の方々の奉仕とご協力により平成十二年に再興され、以来毎年その地区の児童と世話役の方々が装束を着けて上津地区から松苗を高良大社まで運び、祭典の後、社殿裏山に植樹します。この神事はかつて高良の神様が、高良山に御鎮座される際に松をお植えになつたという故事伝承に由来しています。

謹賀新年

高良大社

代表役員

宮 竹間

同 宗磨

責任役員 飯 笹

同 実

川村 謙二

同 同

赤司 昌生

同 同

緒方

同 同

永済

同 同

俊毅

同 同

監査役

渡辺

同 同

町田

同 同

中島田

同 同

大石

同 同

相談役

平田

同 同

彌永

同 同

黒岩

同 同

渡辺

同 同

町田

同 同

中島田

同 同

正徳

同 同

恭行

同 同

義範

同 同

延峰

同 同

徹也

同 同

光弘

同 同

幸治

同 同

義明

たまたれ

建国記念日に行われるこの祭典では、日本国の建国を祝い、皇室の弥栄、国の隆昌安泰を祈念します。

紀元祭

二月十一日

祈願祭のご案内

一年の計は元旦にあり

(年齢は数え年です)

男性の厄年

昭和三十年	62才	厄明
昭和三十一年	61才	厄祓
昭和三十二年	60才	厄入
昭和四十九年	43才	厄明
昭和五十年	42才	厄祓
昭和五十一年	41才	厄入
平成三年	26才	厄祓
平成四年	25才	厄祓
平成五年	24才	厄入

女性の厄年

※厄年に閑わらず、厄除祈願もお受けしております

その他願意もご相談下さい
祈願初穂料 個人五千円以上
団体一万円以上



いづれの祭典も
皆様にはどうぞ
お参り下さい。

社四大祭といふとしごいのまつり」と読み、全国の多くの神社で行われます。お米をはじめとする五穀豊穰、皇室の繁栄、産業の発展、国家・国民の繁栄を祈る祭典で、高良大社四大祭の一つです。このお祭りは十一月の新嘗祭と対になる形で、我が国では古くから重要な祭祀

■ 祈年祭
二月十七日

歳の始めに家内安全・事業繁栄・厄除等の御祈願をお受け戴き、此の一年が皆様にとりまして幸多き歳となりますようご案内申し上げます。

又お正月に限らず、月初め・年始初め、年間を通してお受け致しております。

又お正月に限らず、月初め・年
度初め、年間を通してお受け致し
ております。

〔祈願種目〕

● 家内安全 ● 商壳繁盛

● 厄年祓
● 還曆算賀

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、国の大繁栄を祈念します。

昭和祭
四月二十九日

我が国では古くから重要な祭祀とされています。

● 學業成就
● 受驗合格

個人五千円以上
団体一万円以上

平成二十八年厄年一覧

高良大社総代会

井別堤 加藤 金藤 豊山 古藤 丸菊 佐江 喜多
上府 田藤 子吉 福下 賀吉 田池 藤崎 村頭
傳好謹 九洲 九洲 賢和 政照 忠春 宏康 清一
一幸一 男 一郎 二弘 美之 男義 幸男 一郎 昭司
人弘渡 典昭 仁智 大正 宏浩 宏司 康渡
生雅渡 典昭 仁智 大正 宏浩 宏司 康渡

新嘗祭ご報告

実りの秋、御初穂の御奉納をお世話いただきました。

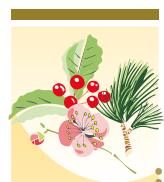
十一月二十三日(月)新嘗祭を斎行。各地区献米世話人の皆様のご協力により、新穀を神前に奉納戴きました。本年は大橋町世話人の中村康胤様が献米使をご奉仕、約一〇〇名の方々のご参列のもと、新穀感謝の誠を申し上げました。



中村献米使 宮司

6班	5班	中央班	4班	3班	2班	1班	太郎原町 代表	高良山 上町 府中 矢取	高良内農事組合 古賀誠一 山本繁 増崎利勝 丸山和博 古賀きぬ子 福田惇史 丸山與市 柳瀬梅野 内野 杉谷 水車谷 柳ノ瀬 内野 5ノ東 5ノ西 6ノ1 案納義信 大久保富佐雄 尾畠洋一 志波ヒロ子 梶村史郎 長尾 靖博 高田弘禪 高田静夫 清原信孝 勝美まり枝 太郎原町 代表
----	----	-----	----	----	----	----	------------	-----------------------	--

藤山町上村	中尾	中村	中村	中尾
藤山町下村	弘昭	勝春	脩介	勝之
大橋町	江口	古賀	緒方	定利
佐藤富一	岩村	岩村	岩村	浩
柳瀬磨	佐藤	佐藤	佐藤	美義
中村康胤	中村	中村	中村	正義
益永順章	秋永	森光	逸男	正行
柳瀬磨	中村	中村	國男	勝之
佐藤富一	佐藤	佐藤	佐藤	弘昭
岩村正義	岩村	岩村	岩村	勝春
佐藤正義	佐藤	佐藤	佐藤	脩介
佐藤勝之	佐藤	佐藤	佐藤	中尾
佐藤弘昭	佐藤	佐藤	佐藤	中尾
佐藤勝春	佐藤	佐藤	佐藤	中尾
佐藤脩介	佐藤	佐藤	佐藤	中尾



■ 献酒献樽・献饌者芳名

新玉の年の初めに御神前への真心
からなるご奉納を戴きました。

献酒献樽・献饌・献灯者芳名

(敬称略・順不同)

中村畜産
赤坂食料品店

島機械センター
御井町郵便局

井樋建設株式会社
アサヒコー・ボレー・ション

福岡酸素株式会社
株式会社ニシイ

喜多村石油株式会社
瑞穂錦酒造株式会社

瑞穂錦酒造株式会社

鷹正宗株式会社

千年乃松
千年乃松酒造株式会社

福德長
福德長酒類株式会社

飛龍
飛龍酒造株式会社

若の壽
合名会社若竹屋酒造場

山の壽
三井の壽

喜多屋
喜多屋

萬年亀
萬年亀酒造株式会社

池亀
池亀酒造株式会社

花の露
花の露

比翼鶴
比翼鶴酒造株式会社

國の寿
目野酒造株式会社

若波
若波酒造合名会社

天吹
天吹酒造合資会社

鮮魚
久留米魚市場

野菜果物
久留米青果市場

■ 献灯者芳名

ご崇敬各位より参道本坂両側に掲
げる灯籠をご奉納戴きました。

中央製袋株式会社
株式会社ブリヂストン久留米工場
株式会社ムーンスター

自立サポートみい合同会社みい工房
株式会社中島田鉄工所
大至産業有限会社
渡辺プロパンガス株式会社
秋吉内科
井手運送有限会社

杜氏の詩
萬年亀
池亀
花の露
比翼鶴
國の寿
若波
天吹
鮮魚
野菜果物

有限会社御井地所
株式会社キュー・セツ
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

大牟田自然を守る会
株式会社えがみ塗装
中川建材株式会社
西日本シティ銀行
株式会社えがみ塗装
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

有限会社幸鮎
株式会社キュー・セツ
西日本シティ銀行
株式会社えがみ塗装
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

有限会社御井地所
株式会社キュー・セツ
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

有限会社幸鮎
株式会社キュー・セツ
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

有限会社幸鮎
株式会社キュー・セツ
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

有限会社幸鮎
株式会社キュー・セツ
九州防水株式会社
りくだい株式会社
株式会社花の露
株式会社いそのさわ
株式会社喜多屋
株式会社高橋商店
萬年亀酒造株式会社
池亀酒造株式会社
株式会社花の露
比翼鶴酒造株式会社
目野酒造株式会社
若波酒造合名会社
天吹酒造合資会社
久留米魚市場
久留米青果市場

たまたれ

秋冬祭事ご報告

高良山くんち

十月九日(金)

◆神生祭 午前零時

高良の大神様のご神威を新たに戴くお祭が山内にて厳粛に斎行されました。

◆例大祭 午前十時半

一年で一番大きな高良山の祭典。神賑として、久留米喜多流奉賛会による謡曲、高良山十景舞保存会による舞が奉納されました。

◆崇敬会大祭 午前十時半

会員の皆様が日頃の御神恩に感謝し、さらなる大神様の御加護を祈念しました。また、表千家不白流九州支部奉仕による献茶式が奉納され境内では参拝者の薄茶の接待がありました。

十月十日(土)

◆観月祭 午後六時

祭典は厳粛に斎行され、祭典後久留米喜多流奉賛会による仕舞、生田流正派による箏曲、筑前琵琶保存会による琵琶錦城流加藤城熟師による吟詠が奉納されました。その場所を境内特設舞台に移し神賑行事が催され、参拝者が爽秋の夜の趣を楽しみました。

柳川日吉太鼓 柳川日吉神社 筝曲 生田流正派

百々手式

小笠原流弓馬術同門会

十月十一日(日)

◆観月祭 午後六時

祭典は厳粛に斎行され、祭典後久留米喜多流奉賛会による仕舞、生田流正派による箏曲、筑前琵琶保存会による琵琶錦城流加藤城熟師による吟詠が奉納されました。その場所を境内特設舞台に移し神賑行事が催され、参拝者が爽秋の夜の趣を楽しみました。

柳川日吉太鼓 柳川日吉神社 筝曲 生田流正派

十月十二日(月)

◆新極真会久留米道場

その場所を境内特設舞台に移し神賑行事が催され、参拝者が爽秋の夜の趣を楽しみました。

柳川日吉太鼓 柳川日吉神社 筝曲 生田流正派

十月十三日(火)

◆第十五回高良山剣道大会

高良山剣道大会実行委員会

十月二(金)～四日(日)

◆第十六回さつき盆栽秋季展

さつき盆栽趣味の会

十月九日(木)から十一日(日)

◆第十六回嵯峨御流生花展

華道嵯峨御流諸岡社中

十月十日(土)

◆日向ひよっこ踊り ときめき会

空手奉納武道

十一月三日(火)

◆明治祭

高良山もみじ狩り

十一月十五日(土)

◆七五三祭

高良山もみじ狩り

十一月二十二日(日)

◆新嘗祭

高良山もみじ狩り

十一月二十三日(月)

◆鎮火祭

高良山もみじ狩り

十二月二十二日(火)

◆煤払い祭

高良山もみじ狩り

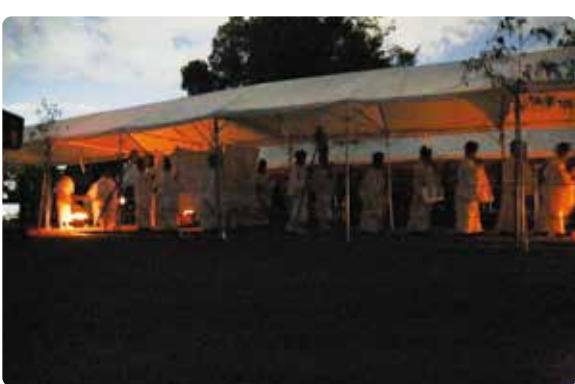
十二月二十三日(水)

◆天長祭

高良山もみじ狩り

十二月三十一日(木)

◆大祓式・除夜祭



遷御



百々手式

◆仮殿遷座祭

十月二十七日(火)

平成の大修理(平成二十七年より平成二十九年秋)に伴いまして午後六時より大神様を仮殿にお移しする遷座祭が厳かに斎行されました。当日は、日中大雨に見舞われましたが祭典時は、雨もあがり約一〇〇名の奉拝御参列を戴き、無事斎行することができました。

◆末社・兼務社の祭事

十月十六日(金)

山川招魂社秋季大祭

民謡奉納 日本民謡協会大川支部 獅子舞・風流

御井町風流保存会 古武道棒術演武

和太鼓 御井鼓舞組 神影流心氣道棒術

高良山同志会 御井町風流保存会

十一月十三日(金)

撰末社大祭 大学稻荷神社冬籠祭

十二月八日(火)

大学稻荷神社冬籠祭

十月二十日(火)

大学稻荷神社冬籠祭

十月二十一日(火)

大学稻荷神社冬籠祭



高良大社では御鎮座一六五〇年をトして御社殿の御屋根替えを行うべく準備を取り進めておりましたが、去る十月二十七日(火)大安満月の夜に、高良の大神様を仮の御本殿にお遷し申し上げる「仮殿遷座祭」が斎行されました。

国の重要文化財であります御社殿(本殿・幣殿・拝殿)は国庫補助及び福岡県と久留米市の補助により、実施施工するものであり、この又とない千載一遇の機会に併せて、御社殿に附帯する中門・透塀の塗り直しをはじめ、お守りなどをお預けする授与所・斎館や境内諸施設の改築なども計画されております。

御社殿の御屋根替えは平成二十九年の秋までの凡そ二年間を要する大事業であり、その間大神様は仮の御本殿にお鎮まりになります。神前結婚式などは仮本殿での斎行となります。

高良大社の職員のみならず、近隣久留米支部神職また福岡県神社庁雅楽部会そして高良大社奉贊青壯年会の皆様方の御助勢奉仕により、仮殿遷座祭が無事に斎行されましたこと、紙面をもちまして厚く感謝申し上げる次第でございます。



仮殿遷座祭斎行される

十月二十七日(火)大安満月に



祭典当日は、大雨の影響もあり、神事のことにつき心配されましたが、お蔭様にて祭典直前に雨も上がり、淨闇のなか厳肅のうちに、大神様には仮殿に御遷座されました。

また高良大社の歴史と伝統を通しての各種事業も計画しております。平成二十九年度には、竣工した御社殿から大神様を神輿に御動座願い、五年に一度の「神幸祭・じんこうさい」で神輿を御巡幸申し上げます。

今般の一連の記念事業を奉祝しての各種事業も計画しております。平成二十九年度には、竣工した御社殿から大神様を神輿に御動座願い、五年に一度の「神幸祭・じんこうさい」で神輿を御巡幸申し上げます。

また高良大社の歴史と伝統を紐解く「記念誌」編纂事業も進捗しております。高良大社の由緒書から、もう少し踏み込んだ本を刊行し、地元学校や図書館・諸施設などにも配布することも視野に入れ乍ら、現在職員を中心とした編纂会議を重ねておる処であります。



助勢奉仕者とともに



今般の御社殿御屋根替え又境内外諸施設の改築工事等につきましては、①国庫及び・福岡県・久留米市の補助金②高良大社の自己資金③奉賛寄付金の3つの柱で賄う計画であります。丁度、3分の一の金額となり、皆様方にお願い申し上げる奉賛寄付金も2億円で準備を取り進めています。

現況、徐々に目標金額に向けて、淨財を御奉納いただいておりますが、平成二十九年度まで継続して奉賛事業も展開しておりますので、氏子崇敬者の篤き志しを賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

御社殿の御屋根替えに伴う
奉賛寄付金のお願いについて



高良山通信

第四回 高良山写真展開催される 四十四名 103点の応募



【第四回高良山写真展優秀作品】

- ・高良大社宮司賞
日野 浩昭 「神龍」
- ・福岡県知事賞
宮原 典子 「春に見惚れて」
- ・福岡県議会議長賞
中井他家教 「夜明け前初雪の高良大社」
- ・久留米市長賞
藤本 仁 「もみじたちの祝福」
- ・久留米市議会議長賞
鎌浦 昭知 「ママと一緒に手々洗つて」
- ・西日本新聞社賞
長岡 基博 「紫陽花を楽しむ家族」
- ・高良大社崇敬会会长賞
松山 将 「春の舞」
- ・審査委員長賞
江崎 幸 「(ご)神木」

(敬称略)

崇敬会入会のご案内

自然豊かな高良山に鎮座する高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱を祀る、筑後国一之宮であり、その歴史は古く、御創建は西暦四〇〇年頃と伝えられています。また、高良大社には、国指定重要文化財など宝物、史跡が大切に護られています。その祖先より受け継がれてきた歴史と郷土遺産を守り後世に伝えるための本会の趣旨にご賛同いただき、「ご入会下さい」と案内申し上げます。

年会費

個人会員

正会員	3,000円以上
賛助会員	10,000円以上

法人会員

正会員	10,000円以上
賛助会員	30,000円以上

会員接遇

毎朝の日供祭にて会員皆様のご安泰ご隆昌を祈願致します

特別参拝が出来ます

会主催の行事に御案内致します

高良大社宝物館を拝観出来ます

お問い合わせ先

高良大社崇敬会事務局
○九四二一四三一四八九三

〔奉職〕	〔退職〕
出仕 宇和 祐一朗 巫女 中島 春美	権祢宜 美明 正治
嘱託 馬場 順子 嘱託 権藤 哲三郎	江崎 幸
平成二十七年十二月一日 平成二十七年十一月十五日	平成二十七年十一月十五日

鎮守の社

丙申歳の新春を迎えました。

丙は「明らか」の意があり、「形が明らかになっていく」「物事の本質が明らかになる」このような意味を持つそうです。努力が報われるそんな歳にしたいものです。

申は猿に通じています。

猿は古くより信仰の対象でもあります。山王信仰の日吉神社や庚申さんの使いとして狛犬と共に社殿の前に夫婦或いは親子の石像を拝します。また馬の守護神としての信仰があります。

猿は悪いことは見ない、言わない、聞かないと幼子教育を教えますが、この彫刻で有名な日光東照宮では神馬の厩舎の周囲に猿の彫刻がありその一場面として三猿があります。

物語では桃太郎・猿蟹合戦・西遊記、佛々等正義の味方として、時には悪者として出てまいります。猿の惑星という映画もありました。今年の干支だからといって猿智恵や猿真似をしていてはお猿さんに嗤われます。気を引き締めてまいりましょう。

「一年の計は元旦にあり」初詣に皆様の御参拝をお待ちいたしております。

「たまたれ」 通巻三十三号
平成二十八年一月一日発行
発行者／高良大社社務所
福岡県久留米市御井町一番地
電話○九四二一四三一四八九三
FAX○九四二一四三一四九三六